

1. 診療科の特徴・特色

小児外科は、新生児から15歳までの小児を対象として外科的治療を行う診療科です。成人の外科と異なって臓器別に細分化されてはいませんので、脳・心臓・骨を除いたさまざまな臓器・疾患を扱っています。平成6年に、埼玉医大病院小児外科が診療科として発足しました。平成20年には、南病棟2階3階4階の3フロアを改修し、産科・小児科（新生児を含む）・小児外科の3科を中心に大学病院では初めての「成育医療センター」が設立されました。胎児期から新生児期そして幼児期以降、成人に至るまで、関連する診療科が連携して診療を行っています。小児外科では、埼玉県西北部地域の広大な医療圏をカバーし、年間約400例の手術を施行してきました。

平成24年7月には小児外科の診療チームは、新メンバーで再スタートしました。近隣の小児科・外科の先生方との連携を取りながら、埼玉県西北部の小児医療の拠点病院として機能しています。

また、埼玉医療福祉会光の家療育センターとも連携し、重症心身障害者のQOLを高める外科治療（胃食道逆流防止手術、誤嚥防止手術など）を積極的に行います。

当科の特色は、低侵襲かつ整容性の高い内視鏡下手術を積極的に導入していることです。小児外科における疾患の中で最も多い鼠径ヘルニアに対してSILPEC（Single Incision Laparoscopic Percutaneous Extraperitoneal Clousure）という、皮膚の切開創は臍のみとなる単孔式の手術法を導入しています（写真1）。臍の傷は臍に隠れるので、ご家族、ご本人に大変好評です。また、虫垂炎に対しても、当科で開発された臍からのsingle port appendectomyを継承し、エネルギーデバイスを用いる技術開発を行っています。今後、腹腔鏡、胸腔鏡手術を、さらに充実させていく方針です。

2. 診療科の体制

教授1名、講師2名、助教1名（写真2）で診療を行っています。手術日は当直体制をとり、術後管理にあたります。手術日以外はオンコール体制をとり、病棟および急患に対応します。

3. プログラムの目的と特徴

- ① 卒後3～4年：後期研修医として外科系診療科をローテートします。
- ② 卒後5～8年：小児病院、成人外科の関連研修病院で臨床経験を積み、外科疾患に関する知識、技能、態度を身につけます。外科専門医を取得し、さらに小児外科専門医を取得します。
- ③ 卒後9～15年：大学を中心に術者として小児外科手術を経験し、小児外科指導医になるべく研鑽をつみます。また、希望に応じて学位取得、留学することも可能です。
- ④ 小児外科専門医取得には、筆頭著書2編以上、小児外科指導医には筆頭著書10編以上の論文発表が必要です。卒後3年目以降から積極的に学会発表を行い、論文発表することを指導します。

※他科からの研修希望者には、研修目的・研修可能期間に対応した研修プログラムを作成し、研修を適宜受け入れます。

4. キャリアパス

- ・日本外科学会外科専門医
- ・日本小児外科学会小児外科専門医
- ・日本外科学会指導医
- ・日本小児外科学会指導医

- ・医学博士
- ・海外留学

5. 診療科の紹介写真

写真 1 : SILPEC (Single Incision Laparoscopic Percutaneous Extraperitoneal Clousure)

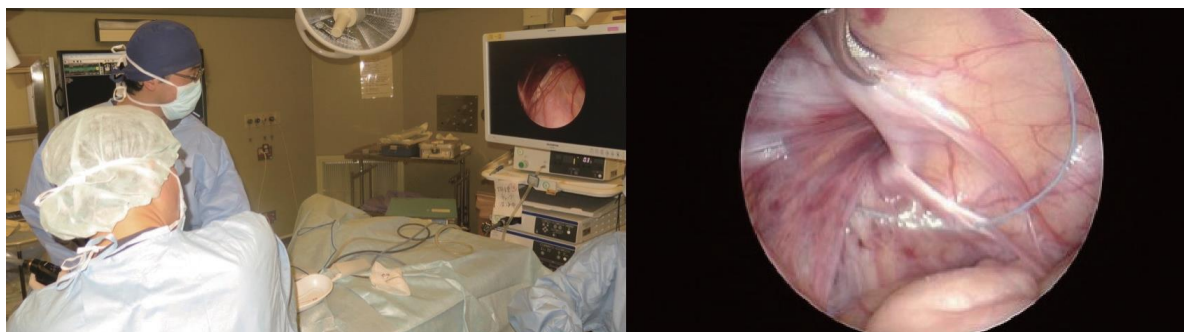


写真 2 : 教室員



合原助教

寺脇講師

古村教授

小高講師

(研修医)

6. 当科連絡先

医局長：寺脇 幹 kan_tera@saitama-med.ac.jp

小児外科医局：049-276-1654